

どのように変わったのか？目次比較

第4章 リスクコミュニケーション：リスクを対話する

- 【4-1】 東日本大震災とリスクコミュニケーション
- 【4-2】 リスクコミュニケーションの社会実装に向けて
- 【4-3】 リスクコミュニケーション
- 【4-4】 不確実性下における意思決定
- 【4-5】 リスク認知とヒューリスティック
- 【4-6】 リスク認知とバイアス（1）：知識と欠如モデル
- 【4-7】 リスク認知とバイアス（2）：専門家と市民，専門家同士
- 【4-8】 リスクに関する対話とリテラシー
- 【4-9】 科学技術とコミュニケーション
- 【4-10】 リスクガバナンスにおける対話の発展
- 【4-11】 情報公開とリスク管理への参加
- 【4-12】 対話の技法：ファシリテーションテクニック
- 【4-13】 リスクの可視化と対話の共通言語
- 【4-14】 手続き的公正を満たす合意形成にむけたプロセスデザイン
- 【4-15】 対話とマスメディア
- 【4-16】 対話とソーシャルメディア

旧 第7章リスクの認知とコミュニケーション

[概説]リスク認知とリスクコミュニケーション

- 1 リスク認知と受け入れ可能なリスク
- 2 文化とリスク認知
- 3 市民のリスク認知
- 4 専門家のリスク認知
- 5 過大視されやすいリスク
- 6 リスク便益分析と社会的受容
- 7 リスクコミュニケーションのプロセスと送り手の信頼性
- 8 リスクコミュニケーションの戦略
- 9 リスクコミュニケーションとパブリックインボルブメント
- 10 情報提示の方法と送り手-受け手関係のバイアス
- 11 情報不足が生み出す不安
- 12 リスクコミュニケーションの情報支援システム
- 13 環境化学物質のリスクコミュニケーションガイド
- 14 医療上のリスクとインフォームドコンセント
- 15 PCBの適正処理をめぐるリスクコミュニケーション
- 16 ジャーナリズムとリスクコミュニケーション

東日本大震災からの示唆①：複合し変化するリスクへ

東日本大震災からの示唆②：現場と研究者との連携

このようにリスクを取り巻く環境が急激に変化する中で、リスコミは**試行的段階から社会に実装される段階に移行した**。社会実装を前提にするならば、リスコミの活動は自立し、継続しながら、並行して社会によりその意味合いと効果を評価される必要がある。**理論研究者と現場の実践型研究者との情報共有を可能とする共通のプラットフォームが必要であり、そこでは、知識水準や立場、価値観を別とした平等な対話の場となるべきであろう。**本書においては、「リスクコミュニケーション」を解説した章に、「リスクを対話する」と副題をつけた理由もここにある。

なぜ変わったのか【4-2】 リスクコミュニケーションの社会への実装に向けて

このように急速に社会実装が進んだ背景には、世界的に流行する（パンデミック）疫病への懸念や地球環境問題による自然災害への対処の必要性が著しく高まったことがあると推測される。その内容には、双方向性やコミュニケーターの信頼性の重要性、科学的説明の必要性だけでなく、ネットも含めメディアによる影響やコミュニティとしての対処もしばしばあげられている。このことは、学問的観点だけでなく、**実際に社会的に問題解決するための実践的側面が重視されているものと推察される。**

リスクコミュニケーションとは、民主主義の哲学・思想と明示しているのである。リスクコミュニケーションに係わろうとする全ての人々が、この考え方に立ち戻り、改めてみずからの活動を見直すとき、社会実装への道筋が見えるかも知れない。緊急時のクライシスコミュニケーション、平常時の科学コミュニケーションなどそれぞれの場を想定し、実践されてきたステークホルダー間のコミュニケーションは、社会実装において、平常時から緊急時に向けた連続的なリスクガバナンスの段階における対話として再確認される必要があり、あわせて、緊急時に誰がどのように社会に対してコミュニケーションするのかという制度や体制に関する議論が必要になってきている。本章はリスクに関する対話の基礎的知識を提供し、**今後の日本のリスクガバナンスにおける対話について述べ、今後のリスクコミュニケーションの社会実装の進展に寄与することを企図している。**

どのように変わったのか？ 内容比較

第4章 リスクコミュニケーション：リスクを対話する

【4-1】 東日本大震災とリスクコミュニケーション

【4-2】 リスクコミュニケーションの社会実装に向けて

【4-3】 リスクコミュニケーション

【4-4】 不確実性下における意思決定

【4-5】 リスク認知とヒューリスティック

【4-6】 リスク認知とバイアス（1）：知識と欠如モデル

【4-7】 リスク認知とバイアス（2）：専門家と市民，専門家同士

【4-8】 リスクに関する対話とリテラシー

【4-9】 科学技術とコミュニケーション

【4-10】 リスクガバナンスにおける対話の発展

【4-11】 情報公開とリスク管理への参加

【4-12】 対話の技法：ファシリテーションテクニック

【4-13】 リスクの可視化と対話の共通言語

【4-14】 手続き的公正を満たす合意形成にむけたプロセスデザイン

【4-15】 対話とマスメディア

【4-16】 対話とソーシャルメディア

基本（リスク認知など）には最新の知見を加え、社会実装、リスクガバナンスをキーワードに、より具体的な内容（意思決定、参加、合意形成）を解説し、変化する場（ソーシャルメディア、リスクの表現、ファシリテーション）にも、対応できる内容にしました。



様々な目的やメディアで活用しつつ、様々な意見を戴き、次の改定に向かいたいと思いますので、忌憚のない意見・議論をお待ちしています。